



社長のための
経営雑学
新しい時代を切り拓く実践経営情報紙

第236号

平成 29年 8月 3日(木)

発行 税理士法人KJグループ

〒536-0006

大阪市城東区野江4丁目11番6号

TEL (06) 6930-6388

FAX (06) 6930-6389

**ROEが高い企業はやはり狙い目！
「攻めのIT経営銘柄」で見えた投資ポイント**

経済産業省と東京証券取引所が共同で選定している「攻めのIT経営銘柄」。株式投資をするならばチェックしておきたい銘柄ではあるものの、結果だけ見ると有名企業ばかりで、その銘柄を狙うのは面白みに欠ける。

しかし、銘柄選定に用いられたアンケート調査結果を分析したところ、成長企業に不可欠な要素が見えてきた。その要素を満たす企業が「次の狙い目」といえるだろう。

では、どのような要素が必要なのだろうか。アンケート調査結果から炙り出されたのは、ずばり「ROE(自己資本比率)」の高さだ。ROEは、どの程度効率よく利益を稼いでいるかを示す指標。日本では、ROEが8%以上の水準になると、PBR(株価純資産倍率)との相関が強まる傾向にあり、株式市場で評価される。アンケート調査結果によれば、「攻めのIT経営銘柄2017」に選定された企業のうち、3年平均のROEが8%以上の企業が65%を占めた。5~8%未満が29%、0~5%未満は6%で、0%未満の企業はなかった。ちなみに、選定されなかった企業のうち、ROEが8%以上の企業は46%だったものの、5%未満が3割以上を占めている。

もちろん、株主資本が少ない場合などはROEが高くなるため、それだけを基準にはできない。しかし、ROEは利益の額ではなく、質を図る指標であるため、安定株で長期運用を狙う際は、ぜひ参考にしてほしい。